

- 1 単元名 どちらの写真が明光中の良さを伝えられるか意見文で検討しよう  
教材名「根拠を明確にして書こう 意見文」(東京書籍1年)

2 単元の目標

- 根拠の明確さについて進んで確かめ、自分の考えが伝わるように書こうとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- 根拠を明確にして書くことができているかを確認し、自分の考えを根拠を明確にして文章を書くことができる。  
(書くこと)
- 書いた文章を互いに読み合い、根拠の明確さについて助言や意見を述べるができる。  
(書くこと)
- 相手や目的に応じて、文章の構成を理解することができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 生徒観

本学級の生徒に対して「書くこと」について、実態調査を行った。「2つのピクトグラムを比べ、採用する理由を文中の特徴や配慮についての言葉を引用して説明する」問題において、\*人が無回答、\*人が誤答であった。\*人の誤答のうち、図の事実を引用せずに、どのように判断したのか理由を書いて自分の考えを書いた生徒は\*人いた。この中には、判断基準とすべき文章中の言葉を引用できず、曖昧な表現や別の言葉で理由を書いた生徒が\*人含まれている。一方、図の事実は書いたものの、どのように判断したのか理由を書かずに自分の考えを書いた生徒が\*人いた。これらから、自分の考えと、それを支える事実や理由との関係を根拠として明確にして書く学習指導が必要であると考えられる。

(2) 言語活動とその特徴

本研究では、中学校第1学年「根拠を明確にして書こう」の学習において、どちらの写真が明光中のよさを伝えられるか検討するための意見文を書く言語活動を設定した。具体的には、小学校6年生向けに、明光中学校のよさを伝えるポスターを1枚(4枚の写真を組み合わせて1枚とする)、3人1組で作るにあたり、どの写真を選ぶかについて検討するために意見文を2回書く。ここで書く意見文には、2枚の写真から読んだ特徴(事実)とそこから考えたイメージ(理由)との関係を根拠として、具体的に項目立てて書くことを位置付ける。このことで「伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと」(B書くことウ)を確実に実現できるようにしている。

(3) 教材観

本教材は、根拠を明確にして自分の考えを書くことをねらいとしている。生徒にとって、学校生活が話題であることや、2枚の写真で情報を比較しやすいこと、相手意識や目的意識をもちやすいという点で、考えと根拠との関係を確かめて意見文を書くことに適した教材であると考えられる。

(4) 指導観

本単元では、中学校第1学年「根拠を明確にして書こう」において、どちらの写真が明光中のよさを伝えられるか検討するための意見文を書く言語活動を設定する。まず、モデル文を比較し話し合う活動を通して、考えと、それを支える事実と理由との関係や意見文の構成を理解する。次に、2枚の写真から項目表を用いて読み取った特徴(事実)やそこから考えたイメージ(理由)が読み取れたか、グループで確かめる。そして、読み取った特徴とそこから考えたイメージを根拠として、モデル文型に沿って意見文を書く。書いた意見文を生徒同士読み合い、自分の考えと根拠の関係を明確にするためには、根拠をどこにどのように示すとよいか、チェックシートや話し合いルールを活用して検討する。助言などを踏まえ、再度自分で書いた文章について良さや改善点を振り返る。最後に、別の写真で同じ文型の意見文を新たに書く。さらに、互いの意見文を読み合っただけで出た助言や改善点、毎時間の振り返りを踏まえ、今後意見文を書く際に心がけたいことを簡潔にまとめる。以上のような学習活動を行えば、自分の考えを根拠を明確にして書く力を身に付けることができると考える。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えについての根拠の明確さについて進んで確かめ、自分の考えが伝わるように書くようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えについての根拠の明確さに書かれているかどうかを確かめ、自分の考えを根拠を明確にして文章を書いている。 Bーウ</li> <li>書いた文章を互いに読み合い、根拠の明確さについて助言や意見を述べ、自分の表現の参考にすることができる。 Bーオ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や目的に応じて、文章の構成を理解している。</li> </ul>

5 単元の指導計画（6時間扱い）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点○主な評価基準（評価は㊦）
1	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     自分の考えが伝わる意見文の型をみんなで作ろう！                 </div> <p>1 2つの例文を比較し、話し合う。 A 事実→考え B 事実→理由→考え</p> <p>2 モデル例文から、モデル文型を作る。 (1) 「キツネとライオン」の童話を読み、どちらの挿絵がふさわしいかを考える。 (2) 意見文を音読し、事実、理由、考えにそれぞれ線を引く。 (3) 穴埋め式の文型を作ったものを、班で確かめ、全体で確認する。 (4) 根拠1、2と根拠3の違いを例文から考える。 (5) 限定、相手意識、目的意識の意味を確認し、モデル文型を作る。</p> <p>3 本時の学習を振り返る。 自分の意見が伝わる意見文にするため気をつけることは何か ・説得力を高めるために、根拠を挙げること ・根拠も事実だけ挙げても伝わらない、事実と理由と両方書くことが大切だということ ・選ばなかった理由を挙げることでより主張が伝えられること</p>	<p>○ AとBの例文を読み比べ、どちらが説得力があるのかを考えることで、根拠の大切さに気付かせるようにする。</p> <p>○ つまづいている生徒には、Bの例文で、Aの例文にはない一文に着目させ、あるのとないのではどう違うのかを考えるように促す。</p> <p>○ 三角ロジックの図に、事実、理由、考え、根拠の言葉を記入する。</p> <p>○ 事実、理由、考え、根拠の言葉の意味を辞書で確認する。</p> <p>○ 線引きでつまづいている生徒は、Bの例文を再度読み、文末や内容に着目するよう助言する。</p> <p>○ 意見文形式のワークシートに毎時間書き込み、授業終了後には意見文に仕上げることを伝える。</p> <p>○ なかなか書き出せない生徒には、今日の学習で意見文の説得力を高める文例は何か、モデル文型からキーワードを抜き出すようにする。</p> <p>○ 根拠1、2だけの文と、根拠3を含んだ文の違いを読み聞かせることで、根拠3があることでより主張が際立つことに気付かせるようにする。</p> <p>○ なかなか書き出せない生徒には、本時の授業で新しく知ったことは何か、モデル文例から抜き出したことを図と見比べて思い出そう助言する。</p> <p>○ 全体で振り返りを発表する。</p> <p>㊦ 意見文について関心をもち、説得力のある意見文の構成や展開について理解している。 (図 ワークシート・発表)</p>
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     小学校6年生に明光中の良さを伝える写真はどれか、比べよう。                 </div>	<p>○ 誰のために（相手意識）、何のために（目的意識）意見文を書くのかを、理解できるようにする</p>

<p>1 学習の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ようこそ 明光中へ」というキャッチコピーに合うポスターを3人1組の班で1枚作ることを伝える。</li> </ul> <p>2 明光中の良さについて、ホワイトボードミーティングを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 8マスを埋めるように、キーワードを書き込む。</li> <li>(2) 小学生が中学校へ来たくなるキーワードは何かを確かめる。</li> <li>(3) 部活動、体育祭、授業の3つのうちのどの担当になるかを班で決める。</li> </ol> <p>3 同じ担当のグループに分かれ、2枚の写真から特徴とイメージをそれぞれ読み取り、項目表に書く。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教師の例示を聞く。 「写真の(特徴)から、明光中学校の(イメージ)が伝わる。」</li> <li>(2) 観点の説明を聞き、2枚の写真の特徴を項目表の観点に従ってそれぞれ書く。</li> <li>(3) 特徴が正しいか、確認する。</li> <li>(4) 特徴に基づいたイメージを項目表の観点に従って書く。</li> </ol> <p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○意見文を書くときの情報の収集について大切なことは何か</li> <li>・観点を意識して書き出すこと</li> <li>・テーマに沿って情報を集めること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学生だったときの気持ちを想起させ、ポスターを作る意義を実感させることで、学習への関心を高めて本時の学習に入っていけるようにする。</li> <li>○明光中のよさを話し合うことで、どのような基準で写真を選べばよいか検討しやすいようにする。</li> <li>○印象ではなく、事実だけの特徴として書き出すように全体に確認する。</li> <li>○写真の読み取りでつまずいている生徒には見えるもの全てを箇条書きをするように促す。</li> <li>○2枚の写真の特徴と理由を読み取る課題が終わった生徒は班のテーマに沿った写真はどちらかを考えるように促す。</li> <li>○意見文のモデル文型と図を提示し、特徴は「事実」に当たること、イメージは「理由」に当たることを確認することで、意見文の構造が理解できるようにする。</li> <li>○別の写真を示し、「事実と理由との関係」が分かる例文を電子黒板で説明することで、活動の見通しをもてるようにする。</li> <li>○イメージの読み取りでつまずいている生徒には、表情に着目させたり、班での対話や教師との対話で引き出すようにする。</li> <li>○同じ担当同士で特徴について情報を確かめた際、新しい特徴があった場合は、朱書きで書き込みするように指示する。</li> <li>○課題が解決した生徒は特徴から読み取れるイメージは小学生に伝わるのかを再度確認するよう促す。</li> <li>○特徴を確かめたときに、どのような点に注意したかを振り返るように促す。</li> <li>㊦ 2枚の写真の特徴と理由を観点に従って正しく読み取れている。 ( 罫 項目表)</li> </ul>
<p>3</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の考えが相手に納得してもらえるか、確かめよう。</p> </div> <p>1 2枚の写真を比較し、選ばなかった写真についての根拠を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 前時のイメージを読み返し、自分の伝えたいイメージの写真を選ぶ。</li> <li>(2) なぜ選ばなかったのか、写真の特徴やイメージを比較して説明を書く。</li> </ol> <p>2 事実(特徴)と理由(イメージ)との関係が正しいか、共有する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 2つの文例をチェックシートを使い方を確認する。</li> <li>(2) チェックシートで、自分の読み取ったことを確かめる。</li> <li>(3) 話し合いルールを確認する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○別の写真を示し、「事実と理由との関係」が分かる例文を電子黒板に掲示することで、本時の学習の見通しをもつことができるようにする。</li> <li>○前時で読み取ったイメージがプラスか、マイナスかを区別して書くようにする。</li> <li>○読み返すだけでなく、比較することで気付いた良さを新しく書き出すよう全体に指示する。</li> <li>○2枚の写真を比べて、どちらも同じイメージで読み取った場合は、大きな違いは何かに着目したり小学生にイメージがより伝わりやすいのはどちらか、一目で見て伝わるのはどちらかを考えさせることで、どちらの写真が良いか説明しやすいようにする。</li> <li>○チェックシート、話し合いルールの使い方を説明し、音読することで、確かめる視点の意識付けをする。</li> <li>○良い文例、悪い文例を出して、実際に子どもたちにチェックシートで検討することで、事実と理由との関係を理解できるようにする。</li> <li>○よい点、助言や質問を具体的に1枚ずつ書くように時間を取るようにする。</li> </ul>

	<p>(4) 一人の意見に対し、残りの2人が話し合いルールに基づき、質問や助言をする。</p> <p>(5) チェックシートで、読み取ったことを再度確かめる。</p> <p>3 本時の振り返りをする。</p> <p>○事実から理由付けをする上で気をつけたいことは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが納得できるような理由付けにすること</li> <li>・事実と理由付けが区別できるようにすること</li> <li>・主張が明確になるよう、選ばなかった理由をしっかりとかくこと</li> </ul>	<p>○ 友だちの助言で納得できるものはメモするよう促し、再度確かめるときの参考になるようにする。</p> <p>○ 時間があれば、共有で感じたこと、気付いたことについて話し合わせた上で、振り返りを行う。</p> <p>㊦ 写真の特徴からイメージを読み取って、事実と理由との関係を明確にしているかを確認、文に書くことができる。 (圖 ワークシート)</p>
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>選んだ写真を皆が納得する意見文を書こう。</p> </div> <p>1 モデル文例やモデル文型を確認し、学習の見通しを持つ。</p> <p>(1) モデル文例を音読する。</p> <p>(2) モデル文例の応用編を音読して、限定、相手意識、目的意識について確認する。</p> <p>2 項目表を基に、意見文を書く。</p> <p>(1) 意見文を書く。</p> <p>(2) チェック表を使って、自分の文章が自分の考えを根拠を明確にして書けているかを確認する。</p> <p>3 班で共有する。</p> <p>(1) 2人分の意見文を読み、チェックシートをもとに、付箋に質問や意見、助言を書く。(10分間)</p> <p>(2) 意見文について話し合いルールに基づき、考えが伝わるか、根拠が</p> <p>(3) 明確で納得できるか、互いに検討する。(9分間)</p> <p>(4) 他の生徒が書いた助言などの付箋をもとに、チェックシートを使って、自分の文章を読み直す。(5分間)</p> <p>4 本時の振り返りをする。</p> <p>○皆が納得する意見文を書くために気をつけたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠が事実と理由に基づいている</li> <li>・選ばなかった理由や違いをはっきり書いていること</li> </ul>	<p>○ 相談しやすいように、同じ担当同士でグループを作って本時は活動する。</p> <p>○ 基本文例と応用文例を両方音読して、違いに着目することで限定、相手意識、目的意識の効果を理解するようにする。</p> <p>○ 実際にモデル文例を使ってチェックシートの使い方を演示することを通して、生徒に文章を確かめることのイメージを持たせるようにする。</p> <p>○ なかなか書き出せない生徒は、前時の短文をどこに置くかをモデル文型で確認することで解決できるようにする。</p> <p>○ 意見文を書き終わった生徒はチェック表を使って自分の文章を読み直し、誤字脱字がないか推敲するよう助言する。</p> <p>○ 友だちの意見文を読むときは、チェックシートの文言を当てはめて質問したり、意見を述べたりして書くように全体に確認する。</p> <p>○ 質問や意見、助言を書くときは、意見文から引用して書くように全体に確認する。</p> <p>○ 活動に取りかかれない生徒は、意見文を読んで納得できたかどうか、その理由を書くように促す。</p> <p>○ 他の生徒が書いた助言などの付箋に、納得がいけば○を、納得がいかなければ×を付け理由を書き、自分の文章を読み直し、直したいところは朱書きするように助言する。</p> <p>○ なかなか書き出せない生徒は、チェックシートやモデル文型を見て大事なキーワードを抜き出すか、自分の文章の改善点から気をつけなければいけないことは何かを書き出すよう助言する。</p> <p>㊦ 自分の書いた文章について根拠の明確さを確認、自分の考えを根拠を明確にして書くことができる。(圖 原稿用紙、振り返り)</p>
2	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>今までの学習を生かし、自分の考えが伝わる意見文を書こう。</p> </div>

	<p>1 行事に関する写真を2枚提示し、どちらの写真がポスターにふさわしいか挙手で確認する。</p> <p>2 どちらの写真がよいかについての意見文を書く文例を音読する。</p> <p>(1) 既習事項を振り返る。</p> <p>(2) 意見文を書く。</p> <p>(3) チェックシートで確認する。</p> <p>3 本時の振り返りをする。</p> <p>○自分の書いた意見文のよい点、改善点について考えたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・納得できる根拠を書いたと思う。</li> <li>・小学生の立場になって書くことを心掛けた。</li> <li>・3観点がないよう考えて書いた。</li> </ul>	<p>○ 挙手で二手に意見が分かれることを確認し、反対意見の人にも納得してもらえよう意見文を書くよう伝えることを通して、学習への関心を高めて本時の学習課題をつかめるようにする。</p> <p>○ モデル文例の音読を通して、意見文完成のイメージを理解できるようにする。</p> <p>○ モデル文型や項目表を提示することを通して、情報の整理や構成を考えるときの助けになるようにする。</p> <p>○ モデル文型の基本型、応用型どちらをつかってもよいと説明することを通して、生徒の負担を減らし、自信をもって書けるようにする。</p> <p>○ 自分の書いた意見文の良い点、改善点について、なぜそう思うのかを意見文から引用するように促す。</p> <p>㊦ 自分の考えを根拠を明確にして書くことができる。( ㊦ 原稿用紙, 振り返り)</p> <p>㊧ 相手や目的に応じて、構成や展開を理解している。( ㊦ 原稿用紙, 振り返り)</p>
<p>2 本時</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>考えが伝わる意見文の書き方になるよう書き直そう。</p> </div> <p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>2 学習の進め方を知る。</p> <p>3 チェックシートに基づき、根拠の明確さについて検討する。</p> <p>(1) 2人分の意見文を読み、チェックシートをもとに付箋に質問や意見、助言を書く。</p> <p>(2) 意見文について話し合いルールに基づき、考えが伝わるか、根拠が明確で納得できるか、互いに検討する。</p> <p>(3) 他の生徒が書いた助言などの付箋をもとに、自分の意見文を読み直し、修正する。</p> <p>4 振り返りとして、今後、意見文を書く時に一番心掛けたことを、極意として書く。</p> <p>「今後意見文を書く時、心掛けることはずばり～！なぜなら～からだ！」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手の立場や伝えたい目的に合わせて書く。なぜなら、納得してくれるからだ。</li> <li>・写真から読んだ特徴から、どういう印象かを書くときに、誰もが共感できる内容になるかを確認する。なぜなら、説得力が上がるからだ。</li> </ul>	<p>○ 本時の学習の流れを黒板に掲示し確認することで、学習の見直しをもてるようにする。</p> <p>○ 前時の提出した意見文での目立った誤答や他の例文でずれや比較、反例のどの部分に当たるかをスライドで再度確認し、共有の視点を意識付けるようにする。</p> <p>○ 級友の意見文を読むときは、チェックシートの文言を当てはめて質問したり、意見を述べたりして書くように全体に確認する。</p> <p>○ 具体的な助言や質問になるよう、意見文から引用して付箋に書くように促す。</p> <p>○ 活動に取りかかれない生徒は、級友の根拠の挙げ方や根拠を提示する順番がどう違うのか、主語が抜けていないか、自分との違いに注目して読むよう促す。</p> <p>○ 他者の意見文を音読してから検討するよう指示する。</p> <p>○ 悩んでいる生徒には、1回目の共有での付箋や、模範例文を参考に、検討するよう促す。</p> <p>○ イメージや明光中の良さを同じ言葉で表現した生徒には、辞書や教科書の語彙表を参考に、書き直すよう促す。</p> <p>○ 級友が書いた助言などの付箋に、納得がいけば自分の意見文を読み返し、書き直すように促す。</p> <p>㊦ 級友の意見文を読み、根拠の明確さについて付箋に助言や意見、質問を書いたり発言したりすることができる。( ㊦ 付箋, 発言)</p> <p>㊧ 自分の書いた意見文について根拠の明確さを確かめ、良い点や改善点、今後の自分の表現の参考にすることができる。( ㊦ 付箋, 原稿用紙, 振り返り)</p>

6 本時の学習

(1) 目標

級友の意見文を読み、根拠の明確さについて付箋に助言や意見、質問を書いたり発言したりすることができる。

自分の書いた意見文について根拠の明確さを確かめ、よい点や改善点を踏まえ、自分の表現の参考にすることができる。

(2) 準備・資料

モデル文型、チェックシート、話し合いルール、模範例文、語彙表、辞書

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>考えが伝わる意見文の書き方になるよう書き直そう。</p> </div> <p>2 学習の進め方を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○ ずれ、比較、反例についての事例を見て確認する。          ○ 意見文を音読した後、チェックシートを基に意見文を確かめる。          ○ 意見文を互いに話し合いルールに基づき、検討する。          ○ 付箋を基に、意見文を見直し、必要があれば書き直す。          ○ 振り返りを書く。</p> </div> <p>3 話し合いルールに基づき、意見文2の根拠が明確かについて、3人グループで検討する。</p> <p>(1) 2人分の意見文を読み、チェックシートをもとに、付箋に書いた質問や意見、助言を書く。(10分間)</p> <p>(2) 意見文について話し合いルールに基づき、考えが伝わるか、根拠が明確で納得できるかを互いに検討する。(9分間)</p> <p>(3) 他の生徒が書いた助言などの付箋をもとに自分の文章を読み直し、修正する。(20分間)</p> <p>4 振り返りとして、今後、意見文を書く時に一番心掛けたいことを極意として書く。(5分間)</p> <p>文型「今後意見文を書く時、ずばり～に心掛けよ！なぜなら～からだ。」</p> <p>(予想される生徒の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み手の立場や伝えたい目的に合って書く。なぜなら、納得してくれるからだ。</li> <li>・ 写真から読んだ特徴から、どういう印象かを書くときに、誰もが共感できる内容になるかを確認する。なぜなら、説得力が上がるからだ。</li> <li>・ ずれ、比較、反例について確かめる。なぜなら、自分の考えが正しく伝えられるからだ。</li> </ul>	<p>○ 前回の付箋での素晴らしい助言を書いた生徒の人数を説明し、誰もが相手への良い助言を行うことで、全員が自分の考えが伝わる意見文に書き直すよう促すことで、学習意欲を喚起する。</p> <p>○ 前時の提出した意見文での目立った誤答や他の例文でずれや比較、反例のどの部分に当たるかをスライドで再度確認し、共有の視点を意識付けるようにする。</p> <p>○ 級友の意見文を読むときは、チェックシートの文言を当てはめて質問したり、意見を述べたりして書くように全体に確認する。</p> <p>○ 具体的な助言や質問になるよう、意見文から引用して付箋に書くように促す。</p> <p>○ 活動に取りかかれない生徒は、級友の根拠の挙げ方や根拠を提示する順番がどう違うのか、主語が抜けていないか、自分との違いに注目して読むよう促す。</p> <p>○ 他者の意見文を音読してから検討するよう指示する。</p> <p>○ 悩んでいる生徒には、1回目の共有での付箋や、模範例文を参考に、検討するよう促す。</p> <p>○ イメージや明光中の良さを同じ言葉で表現した生徒には、辞書や教科書の語彙表を参考に、書き直すよう促す。</p> <p>○ 級友が書いた助言などの付箋に、納得がいけば自分の意見文を読み返し、書き直すように促す。</p> <p>㊦ 級友の意見文を読み、根拠の明確さについて付箋に助言や意見、質問を書いたり発言したりしている。(㊦ 付箋、発言)</p> <p>○ 授業を振り返り、自分の良い点や改善点を思い返し、どうしたらできたのか、そのときに気を付けたことは何かを思い出すように全体に助言する。</p> <p>○ なかなか書き出せない生徒には、今までの振り返りを読んで、次の意見文を書くときに一番自分が気を付けたいことを選ぶことと、その理由を書くように勧める。</p> <p>㊦ 自分の書いた意見文について根拠の明確さを確かめ、よい点や改善点を踏まえ、自分の表現の参考にしている。(㊦ 付箋、原稿用紙、振り返り)</p>